

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム福山の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県霧島市福山町福山775-2
記入者名 (管理者)	倉 富 修 一
記入日	平成 21年 4月 14日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	職員会議や朝の申し送りなどで唱和し、それが行えているか考えてもらう事を検討中。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	パンフレットやホーム便りを作成し、掲載していくことを検討中。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	家族以外の方々が気軽にお茶を飲みに来れるような雰囲気づくりをいかにやっていくか職員会議で検討していく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	宮浦宮の清掃作業を元宮司であった入居者を中心に行っていく事を検討中。又、地域の行事等を調べ参加していく予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	霧島市の健康福祉祭りに参加しパンフレットを配布した。認知症セミナーなどの研修会において認知症の事を地域の方に知ってもらう為の劇に出演した。	○	運営推進会議で地域の方々と意見交換を行う中でグループホームへ遊びに来ていただいたり、グループホーム行事への参加を勧める。また、福山町において左記の様な劇などによる啓蒙活動を行うよう検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それらに基づいた具体的な改善は現在の時点では行っていない。	○	評価に基づき改善できるか所より取り組んでいく予定。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議においてホームの状況やサービスについて報告し意見を頂いている。またそこで出た意見を職員会議などで報告し、ケアの向上に役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する行事や学習会に積極的に参加し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	最近職員は研修などの参加は行っていない。	○	今後職員に理解してもらい様研修への参加を行う予定。今後活用すると思われるので資料の準備を行っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設前に事業内で勉強会を行ったのみで研修には参加していない。	○	意識を高める為に研修に参加する予定。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項に沿って説明を行い納得された上で契約している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出かけたい場所を聞いたり、食事の好みを随時会話の中で聞いている。	○ 介護相談員を受け入れる予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的ではないが面会時に健康状態や最近の様子やを報告している。預かり金については出納簿は記載しているが口頭で残金等を伝えている。	○ 預かり金の報告は定期的に署名捺印を頂くようにする予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設けている。来訪時に意見要望がないかを聞いている。	○ 意見や要望が出しやすいようにアンケートを活用する予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議又は随時職員に意見を聞いたりしている。またケアについてやその他の事項のアンケートを書いてもらっている。	○ アンケートを基に個人面談する予定。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて職員の勤務時間を調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が新職員に慣れてくるまで時間がかかる為他の職員ができる限り支援して利用者の混乱が起こらないようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には入職時に事業所内外研修を行っているが、経験者は計画的には行っていない。	○ 他事業所での研修をも入れ、経験者の研修を計画的に参加させる予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し他のグループホームとの交流を行っている。	○ 他事業所の見学・研修を行い、職員同士が交流する機会を作っていく。他、特に介護職員のみが集まる会議が行われるのでそれらに積極的に参加する予定。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員専用のトイレや浴室を設置している。	○ 1時間の休み時間を確保できるよう検討中。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	アンケートによるケアについてやその他の業務についてのアンケートをとった。	○ アンケートを基に個人面談する予定。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に御家族と一緒に通ってもらうようにしている。事前に御家族やケアマネージャーより情報を得てコミュニケーションをとるよう心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に御家族と話す機会を作り不安な点を解消するようになっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の本人への思いを理解し、家族の意向、本人の思い、介護力を考え、そのほかのサービスを含めた説明を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはなるべく来訪してもらうようにしている。又、御家族にもなるべく多く訪問してもらうようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と話をする中で特に季節行事(餅米の蒸し方や時間、そば打ちの要領など)に関する事は入居者から聞いたり指示を受けたり、また入居者をお願いして行ってもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出時の同伴や希望に沿った帰宅支援を家族と相談しながら行っている。また、家族で美容師の方には希望者のみ散髪をしてもらったり、時には排せつ介助を行ったり、昼食を一緒に食べたりしている。	○	家族の来訪時に散歩の付き添いを定期的に行えるようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時には入居時の様子を伝え、また家族にも近況を尋ね入居者との関わりにも生かせるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく外出時にいつも言っていた商店に行ったり、自宅付近に行くようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有スペースで個々の居場所の確保をして、気の合う者同士で過ごせるように配慮している。また意思疎通が困難な方については職員が間に入り会話が持てるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居され自宅に帰られた方がいるが、家族やサービス利用事業所に時々赴き現在の状況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの意思を尊重し、意向に添うように心掛けている。意思疎通が困難な場合には御家族などから情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの習慣を家族やサービス利用事業者、ケアマネジャーに尋ねるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとり、過ごし方のペースに職員が合わせ、できる事に着目しそれぞれの状態に合わせて過ごせるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には本人の意向や家族の意向及び職員より情報を集め作成している。それを家族には確認してもらっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しは行っている。また退院後状態の変化がある方も同様である。日々の細かなケアの変化については申し送りノートで済ませている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化、本人の話した言葉をできるだけ記録している。	○	朝夕の申し送りで検討内容をきちんと記録に残せるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを継続利用したい入居者は、同法人のデイサービスを週1回利用してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	万が一入居者がいなくなった時は駐在所に連絡を入れるようになっている。	○	地域行事や小中学校の運動会の参加見学などを行っていく予定。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスを継続利用したい入居者は、同法人のデイサービスを週1回利用してもらっている。	○	他事業所とも連携を取っていく予定。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員であり、必要に応じて相談し助言してもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族や本人の希望により医療機関を決めている。できるだけ今までかかっていた病院の受診継続を勧めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	病院受診時やサービス担当者会議などで定期的に話し合うようにする。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	病院受診時やサービス担当者会議などで定期的に話し合うようにする。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は1か所にまとめている。失禁の対応はさりげない言葉でプライバシーを傷つけないようにしている。	○ 適切な声かけや対応が不十分な職員もいるので今後も継続して注意するように指導していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	それぞれの理解力に合わせた話をしたり説明を行うよう心掛けている。	○ 適切な声かけや対応が不十分な職員もいるので今後も継続して注意するように指導していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいか具体的に表現できる方は少ないが、なるべく意志を表出できるよう働きかけるようにしている。活動が始まった場合には見守りや一緒に活動できるよう心掛けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る服や理美容は本人や家族の希望に沿って行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に合わせ、本人が気が向くときに準備や片付けをしている。食事内容も全てではないが多少変えて出している。職員も一緒に食事をしている。	○ 食事作りを一緒に行えるよう声かけや
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつについては基本的に全員同じ物を差し上げている。家族が持ってこられたりした場合は、そのまま食べていただいている。	○ 好みの物を一緒に買いにいけるよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	さりげなく見守り支援したり、排泄の兆候が見られたら、声をかけトイレに案内するようにしている。	○	リハビリパンツを外し、パンツをはいてもらえるよう行っていく予定。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に2～3日に1回は行えるようにしているが、本人の希望により連日入浴したり、延期したりしている。入浴手順は個々のやり方に沿って支援している。	○	入浴拒否の方が多いので温泉に連れて行ったり、家族と一緒に入ってもらうなどの事を検討中。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々体調などに合わせ窮鼠kるや安眠ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌ったり聞いたり、音楽を聞いたり、時折自宅に帰ったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名は現金を所持している。他は事業所にて管理しており、必要時に出し入れをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候によっては戸外に出ることがなく事業所の中だけで過ごすことがほとんどである	○	気候のよい暖かい日は戸外に出て散歩を楽しむよう取り組みたい。秋まではボランティアの協力で近所の散歩ができていたが、冬はあまり散歩ができなかった。霧島市高齢者ボランティアや家族の協力をいただき支援していきたいと思う
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	概ね1～2カ月に1回は入居者の希望を取り入れながら遠足を行っている。その際家族にも声をかけて都合のつく方は一緒に行っていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については希望があるときは職員がかけて電話に出てください、遠方からの電話には職員と一緒に対応している。	○	手紙や年賀状をかける範囲で支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会があった方に、他の方々にもいつでも気軽に訪問してくださいと伝えてもらうよう訪問された方にはお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施設内研修にて学習したのみであるが、危険な動作の見られる利用者であっても見守りなどで支援している。ベッド柵は転倒予防・寝具のずれ予防のため、一部に装着している	○	今年度研修会に参加する予定。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関は日中は開錠している。利用者の所在を職員は把握しており、玄関口に出ると気づき同行できている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の活動を妨げず、さりげなく様子を見に行っている。リビングでは必ず職員が1人同席して、利用者の変化にすぐ対応できるようにスタッフ間の連携を密にしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用品の包丁やはさみなどは一緒に活動する際は、手の届く場所で利用者が使用しやすいように見守り支援をしている。不必要時は鍵のかかる引き出しに保管している。洗剤は濯場の倉庫に保管する		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの予防策を学習している。ヒヤリハット記録は些細なことも記載して職員での検討を行ない、予防できるような意識付けをしている。家族への連絡は随時、管理者、介護者から行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルがある。特に、心拍停止時の対応、AEDの使用法などの学習会は開設時に実施している。定期的には行っていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行ない消火器の使い方の訓練をしている。緊急時の連絡体制を掲示し随時確認を行なっている。	○	今後隣接病院などとの連携体制の話し合いを進めていく予定である
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況によりリスクの説明を行なっている。病気や困ったことの対策については、状況に応じて家族の気持ちを聞いて、対応策を考えて取り組んでいる	○	説明した内容を記録に残すようにする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェック時、些細なことでも気づいたことは管理者に報告している。心配なことや普段と異なることが発生したら、隣接病院に相談報告をして受診している。対応に変化があれば申し送りノートを利用して共有している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は鍵つきの場所に保管している。利用者には手渡し服用するまでの確認を行なっている。薬の作用についての説明書をファイルに閉じて職員がいつでも確認できるように保管している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として、毎朝の牛乳、ヨーグルトなど飲んでもらっている。排泄チェックを行ない個々の状態に応じた対応に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきの声掛けを行ない、同時に口腔内の異常がないかをチェックしている。義歯の洗浄は習慣のある利用者は行なっている。歯磨き動作はできるところは見守り、できないところは支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録している。少ないときはおやつ時に食べれる物、好みの物を補給できるように努めている。水分は1500mlを目標に補給に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、予防対策に努めている。家族へも手洗い、うがいの徹底をお願いしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等は随時消毒し清潔に心がけている。調理用具や食器は洗浄後必ず乾燥機での高熱乾燥を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	つつじとプランターの花が来客者を迎える。道路まで坂になっているので手すりを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアにリビング・台所があり、食事の準備や後片付けに気軽に入りやすい動線になっている。台所に入って茶碗を洗われたりする利用者もいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士での食堂テーブルの配置やリビングでは座りやすいセッティングにしている。玄関や廊下などのスペースにはイスを置き好きな場所で一息つける工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット以外は私物を持ち込んでいる。家族の写真を飾ったり小物をや趣味の本などを置き、個々の時間を過ごしている。家族にもなるべく自宅の雰囲気や配置を醸し出すために荷物を多く運んでいただけるようお願いしてる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには湿度計・温度計があり随時チェックしてエアコン調整や換気を行なっている。玄関の匂いや排泄物の臭いが不快にならないように換気扇や消臭剤で調整している。居室での排泄汚染時は即清掃して快適な空間にしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に活動する動線を崩さず安全に移動できるように配慮している。歩行時、車椅子移動時の手すりの利用ができています。日常生活動作にそった落ち着く場所で生活できるように配慮をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活動作では自ら活動する際は何をしたいのかを見守り、できない部分には支援をしている。日課に添った活動の声掛けをするが、個性を大事にした活動を優先して支援する。混乱を起こす行動を改善するために、ケアカンファレンスでケアの話し合い、ケアの統一を図り不安を取り除く方法を考えている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではプランターの花を楽しむことができる。外には長椅子があり日向ぼっこや散歩時の休憩に利用している。	○	野菜作りを楽しめる空間作りを検討している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在福山町には唯一のグループホームであり、入居者や入居希望者もほとんど福山町であり近隣の方々である。(入居者同士が遠い親戚であったり同級生であったりしている) その為入居時、入居者が顔なじみの為多少は安心感があると思われます。入居者のリズムに合わせ、行いたい事の制限はせず、できる限りの支援を行うことにより、生きたいという思いと笑顔を引き出すよう心掛けている。その為入居者はのんびりとした空間の中でゆっくりとした時間をすごされています。